

AFF (アジア・フレンドシップ・ファンド) 協力のお礼と報告

「こども」「いのち」「アジア」をテーマに、熊本YMCAは2008年10月に迎えた創立60周年を記念してAFF(アジア・フレンドシップ・ファンド)を設立しました。貧困や紛争によって困難な状況にある子どもたちのためアジアのYMCAが行うプロジェクトに対して、熊本YMCAが共にパートナーとなって取り組むために活用させていただきます。皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

(3/25現在)

募金受入先	募金額
熊本YMCA創立60周年記念式典募金	127,716
チャリティ社交ダンス大会益金	367,935
チャリティボウリング大会益金	107,380
岡林信康チャリティコンサート益金	410,164
島優子チャリティピアノコンサート益金	596,650
YMCA阿蘇三保育園阿蘇まつり保護者会一同	17,076
熊本YMCA学院同窓会	58,768
健康教育部同窓会	17,441
金書益金	43,000
個人(3件)	52,767
2007年度国際協力青少年育成年末募金	100,000
2008年度国際協力青少年育成年末募金	500,000
合計金額	2,398,897

熊本県産木材を利用した優れた施設を顕彰する「第14回木材利用大型施設コンクール」において、YMCA赤水保育園(設計・侑風設計室・施工・(株)東稜建設)が見事グランプリ「熊本県賞」を受賞し、3月19日(木)、熊本県庁で表彰式が開催されました。コンクールでは、効果的な木材



2008年8月に新築・移転されたYMCA赤水保育園

赤水保育園が「第14回木材利用大型施設コンクール」熊本県賞(グランプリ)を受賞



森の保育園として活用が期待される

の使い方やデザインの美しさを基準に、選考委員会による書類審査、現地審査を経て各賞が決定されました。熊本YMCAでは、2000年阿蘇キャンプのメインホールが「熊本県森林組合連合会賞」を受賞して以来、今回は、子どもの目線に



熊本YMCA福祉会理事長の堤弘雄さんに蒲島県知事から表彰状が贈られた

あつた心配りが評価されました。地球環境の保全に関心が高まる中、森林資源の価値が見直されています。森林は木材を生産するだけでなく、生命を育み地球温暖化防止に重要な役割を果たしています。YMCA赤水保育園は、阿蘇地区の森の保育園として、これからも子どもたちのすこやかな成長を願いながら保育に努めてまいります。

長い?短い?あなたの73000時間 セカンドライフ応援セミナー

2月25日(水)、くまもと県民交流館パレアで「セカンドライフ応援セミナー2009」が開催されました。YMCAファイランソロピー協会や熊本県社会福祉協議会、くまもと県民交流館らで構成される実行委員会の主催により3回目。

テーマは「長い?短い?あなたの73000時間」。73000時間とは、定年後の時間を「1日8時間×365日×25年」と仮定したものの。セミナーは二部構成で行われ、

■定年後の生活設計を資金面から考える

冒頭「10年後、15年後、あなたは何歳ですか?」「何をしていますか?」という呼びかけに対し、参加者は目を閉じて将来の自分の姿をイメージ。世の中はどんどん変化していくのに、自分だけ変わらずにいることは難しい。変化に応じて柔軟に考え方や生き方を変えることが必要です」と広瀬さん。

次に、漠然とした夢や目標を実現するために必要な「ライフプラン」や、退職や子どもの入学など、将来必ず起こるであろうイベントを含めた「かかる費用」と、資格取得のための「スクール受講料など」かかる費用を予測した「資金計画表」の作成方法について解説がありました。「現在の収入をベースに、生活費や収入の増減などを記入すると、高齢期に達した時に残るお金が試算できます。そこから赤字などの問題点や改善策を検討することが大切です」と、明るいセカンドライフを送るためのマネープランの立て方を学びました。それぞれが生活を見直し、これからの生き方を考えるきっかけになったようです。



第一部では、NPO法人ライフ&キャリア教育サポート理事長の広瀬美貴子さんが「明るいセカンドライフはマネープランから」と題し講演。また第二部では、熊本YMCA学院非常勤講師で、NPOファシリテーターL&C代表の加藤千尋さんによるワークショップ「わたし、あなた、そしてみんなのための73000時間の使い方」が行われました。

■自発的な行動で充実したセカンドライフを

加藤さんは、退職後の人生を山登りに例え、「今、皆さんがいる場所は山頂付近。ここまで上を目指すことは学校や職場で学んできたものの、どう下りるか?は学んでいないのではないのでしょうか。これからの人生は、自ら考えて行動することが必要です」とセカンドライフの心構えを説明。続けて、「今後、より良く生きるためには誰かとつながりを持つことが大切」と、新しいコミュニティに入る場合に必要コミュニケーション能力を高めようと、グループに分かれて様々な課題に挑戦しました。

各テーブルに地域で起こっている問題を記入した紙と、「もし、私が○○だったら」とあらかじめ「特技」が書き込まれたカードが配られ、この特技を使ってどのように問題を解決していくかを話し合いました。食の不安を例にした問題には、「私は絵が得意なので、安全な生産者の様子をイラストで伝えたいなど、ユニークな発想も。わたし(自分)、あなた(家族や仲間)、みんな(社会)のためにできることを話し合いました。」

